

Youth America Grand Prix 2007

海外レポート ユース・アメリカ・グランプリ2007

未来へはばたくスターたち

若手ダンサーの登竜門として、世界中から熱い視線を浴びるユース・アメリカ・グランプリがNYで開催された!



パウリーナ・グライエブ・アベラ
[プリ・コンペティティブ部門ホープ賞]
Paulina Gursleb Abela ©Nan Weiss



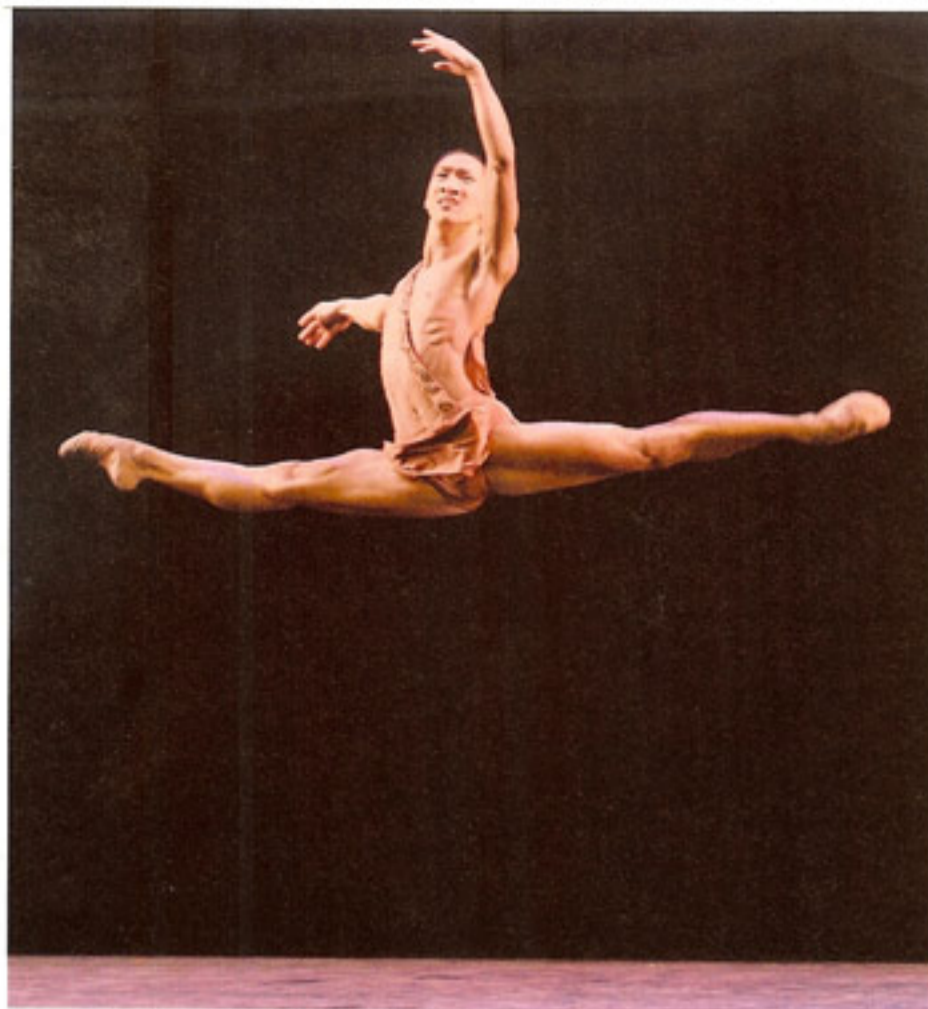
メリッサ・ハミルトン(シニア部門グランプリ)
Melissa Hamilton ©Nan Weiss



マイルズ・E・バートル(シニア部門名譽グランプリ)
Miles E. Bartel ©Nan Weiss



キリル・クリッシュ(ジュニア部門グランプリ)
Kiril Krush ©Nan Weiss



ジム・ノワコフスキー(シニア部門男性1位) Jim Nowakowski ©Nan Michale

今年で八回目を迎えたユース・アメリカ・グランプリ(YAGP)のファイナルが、四月二十七日、三十日、NYで開催された。審査のカテゴリはシニア(十五〜十九歳)、ジュニア(十二〜十四歳)、プリ・コンペティティヴ(九〜十二歳)、アンサンブルの四部門から成り、全米九都市および日本、メキシコ、ブラジルで予選大会が行われた。ファイナルには、各地の予選通過者に海外応募のビデオ審査合格者を加えた合計三百二十九名が参加。シニア部門とジュニア部門は、クラシックとコンテンポラリーの審査を経て、それぞれ五十名と三十九名が二十九日の最終ラウンドに進出した。

最終ラウンドに進出した。

マーティン・ルーサー・キング高校講堂で行われた最終ラウンドは、例年以上の緊張感に包まれていた。ABT芸術監督ケヴィン・マッケンジー、パーム・ロイヤル・バレエ芸術監督デヴィッド・ビントリ、そして来年スベインで自分のバレエ団を旗揚げするというABTのスター、アンヘル・コレラらの姿が客席に見られたからである。YAGPは、プロをめざす十代の若者たちを対象にしたスカラシップ・コンクール。優秀な生徒を探すバレエ学校関係者から熱い視線を浴びてきた。

あくまでバレエ教育に重点が置かれていたのである。各国からスターダンサーが集まる最終日のガラ公演にバレエ団の芸術監督が集まることはあっても、本選の場で顔を揃えることはこれまでなかった。

しかし、昨年からは「ダンサーの就職」にも積極的に取り組みはじめた。審査員にもフリーアップ・ブルームヘッド(ヒューストン・バレエ・バレエ・マスター)、リッカルド・ブスタマンテ(サンフランシスコ・バレエ・バレエ・マスター)、セプティム・ウエバー(ワシントン・バレエ芸術監督)、グレゴール・ハタラ(ウイーン国立劇場バレエプリンシパル)、カーク・ビーターソン(ABTスター)、ジョ・カンパニー(芸術監督)と、バレエ学校関係者だけでなく、バレエ団スタッフが多く加わるようになった。

「昨年シニア男性一位に選ばれたマティアス・ディングマンは、今シーズン、多くのカンパニーに入団したんだ。そのこともあって、YAGPのことはずっと気になっていた」と語るのはビントリ。ただ、来シーズンはダンサーの新規採用予定がないのだという。それなのになぜわざわざNYにまでやってきたのだろうか。

「今回YAGPを見に来た目的はもつと将来のためのもの。実際、ジュニア部門のレベルの高さに驚かされました。今年に関して言えば、十二、十三歳の生徒たちのほうがシニアよりも優れていると思った。なかでも男性にはすごい子がいるね。このなかで誰が素晴らしいスターに成長するか、その名前はすでにはっきりしている。ぼく

は今日の印象をすっかり書きとめておくけれど、このノートは何年か経ってからの採用に役立つはず。また来年も見に来たいと思います」

ビントリも語る通り、今年の最終ラウンドはジュニア部門の充実ぶりが目立った。そのなかで(グランプリ)を手にしたのはキリル・クリッパシュ。昨年プリ・コンペティティヴ部門の最高

賞であるホープ賞を受賞した彼は、今年ジュニア部門に上がっていきなりグランプリを手にした。小柄ながらビルエットの美しさが二階目を引く。男性

第一位に選ばれたのは、同じく十二歳の寺田智羽。幼い風貌に似合わず軽々とこなす跳躍や回転に、観客は大きな拍手を贈っていた。

男性第二位のエステバン・ヘルナンデ



マコ・ナガサキ(シニア部門女性1位) Mako Nagasaki ©Nan Michale



浅井真和(シニア部門男性2位) Yoshikazu Asada ©Nan Michale

どスんデキタミのスを兄アングス

25



デヴィッド・ビントリー
David Bintley

女性では、堀内恵が第二位を受賞した。愛らしい容姿の持ち主だが、テクニクスのレベルはとて高く、かつクリン。第二位のホイットニー・ジェンセンは堀内とは対照的にアグレッシブな踊りを見せた。第三位は北京舞踊学院から参加したリヤオ・シャン。

容姿が舞台に映える。最終ラウンドで踊った「ドン・キホーテ」の「ドリアードの女王」は、バレエ・ブランにふさわしい清楚な踊りが印象的だった。終盤にミスがあつたがそれもその魅力を減じさせなかったようだ。

B Tスタジオ・カンパニー入団が唯一の特典とされてきたために「グランプリ」の特典が増えてきた。そのためスタジオ・カンパニーとの契約は来年の審査からは「グランプリ」と明確に分けられることが決まった。

に将来が楽しみ世に選ばれたのは、ラス・アレンとベ。十三歳のアレ。な顔という理想。加え、踊りその。ルな雰囲気。美。ーンは跳躍が美。の成長に期待を

シニア部門では、メリッサ・ハミルトンが「グランプリ」に輝いた。ハミルトンは現在、アテネのイレク・ムハメドフのもとで学んでいる。テクニクにとくに秀でているわけではないが、音楽性も含めた全体的な調和が高く評価されたのだろう。長身で金髪の美しい

オ・カンパニーと契約する特典が与えられるが、今回スタジオ・カンパニー芸術監督ピーターソンは彼女以外にもうひとりのダンサー、マイルズ・E・パートルにも入団をオファーした。長身でノーブルな雰囲気を持った王子タイプダンサーである。パートルには「名譽グランプリ」が授与された。当初A

男性第二位はジム・ノワコウスキー。小柄ながら「ディアナとアクタエオン」で見せた超絶技巧の連続には観客が大興奮し、演技終了後にはスタンディング・オベーションが起きたほど。彼はヒューストン・バレエへの入団を決めた。二位の浅田良和が踊ったのは、「ブルンヴィル版「ラ・シルフィード」の



フランセスカ・ドゥガルテ・ロメロ (シニア部門女性2位)
Francesca Dugarte Romero © Igor Mikheev



望月理沙 (シニア部門女性2位) Risa Mochizuki © Nan Melville



田辺淳 (シニア部門男性3位) Jun Tanabe © Gare Schivone



オーロラ・ディッキー (シニア部門女性3位) Aurora Dickie © Nan Melville



ホイットニー・ジェンセン (ジュニア部門女性2位)
Whitney Jensen © Nan Melville



チェ・ヨンギョ (シニア部門3位) Young Gyu Choi © Hisaki Tanaka



テルモ・ヒギノ・ゴメス・モレイラ (最優秀ヨーロッパ・ダンサー賞)
Telmo Higino Gomes Moreira © Igor Mikheev



リャオ・シャン (ジュニア部門女性3位) Liao Xiang © Igor Mikheev

Youth America Grand Prix 2007 NYC Finals

ユース・アメリカ・グランプリ2007 審査結果 2007年4月27~30日/ニューヨーク

コンペティション入賞者

●シニア部門

【グランプリ】(ABTスタジオ・カンパニーと契約)

メリッサ・ハミルトン(18歳/ギリシャ)

【名譽グランプリ】(ABTスタジオ・カンパニーと契約)

マイルズ・E・パートル(16歳/アメリカ)

【男性】

第1位 ジム・ノワコウスキー(17歳/アメリカ)

第2位 浅田良和(18歳/日本)

第3位 チェ・ヨンギョ(16歳/スイス)

田辺淳(18歳/日本)

トップ12 浅田良和(18歳/日本)、カイル・テイヴィス(16歳/アメリカ)、ノルトン・ラモス・ファンティネル(19歳/ブラジル)、ジョン・マーク・ジラゴシアン(18歳/アメリカ)、テルモ・ヒギノ・ゴメス・モレイラ(15歳/ポルトガル)、チェ・ヨンギョ(16歳/スイス)、ジム・ノワコウスキー(17歳/アメリカ)、マイルズ・E・パートル(16歳/アメリカ)、田辺淳(18歳/日本)、チェホン・ヴェスピ・チョップ(18歳/イギリス)、シャルル・ルイ・アンドレ・吉山(17歳/日本)、ヴァレンティノ・スチエッティ(18歳/イギリス)

【女性】

第1位 マコ・ナガサキ(18歳/モンゴル)

第2位 フランセスカ・ドゥガルテ・ロメロ(17歳/ベネズエラ)

望月理沙(15歳/日本)

第3位 オーロラ・ディッキ(18歳/ブラジル)

トップ12 オーロラ・ディッキ(18歳/ブラジル)、フランセスカ・ドゥガルテ・ロメロ(17歳/ベネズエラ)、メリッサ・ハミルトン(18歳/ギリシャ)、クリスティー・レイサム(16歳/アメリカ)、ジョージア・レースロップ(17歳/アメリカ)、ケイティ・マクラフリン(16歳/アメリカ)、望月理沙(15歳/日本)、サラ・ミシェル・ムラウスキー(15歳/アメリカ)、マコ・ナガサキ(18歳/モンゴル)、藤山万梨子(16歳/アメリカ)、ケイリー・ショック(17歳/アメリカ)、カーステン・ウィックランド(16歳/カナダ)

●ジュニア部門

【グランプリ】キリル・クリッシュ(12歳/アメリカ)

【男性】

第1位 寺田智羽(12歳/日本)

第2位 エステバン・ヘルナンデス(12歳/メキシコ)

第3位 コンスタンティン・ニコラス・アレン(13歳/アメリカ)

ペイリー・ムーン(14歳/アメリカ)

【女性】

第1位 堀内恵(14歳/日本)

第2位 ホイットニー・ジェンセン(14歳/アメリカ)

第3位 リャオ・シャン(14歳/中国)

トップ12 コンスタンティン・ニコラス・アレン(13歳/アメリカ)、プリン・ギルバート(14歳/アメリカ)、早稲葉々子(14歳/日本)、エステバン・ヘルナンデス(12歳/メキシコ)、堀内恵(14歳/日本)、ホイットニー・ジェンセン(14歳/アメリカ)、森高万智(14歳/日本)、キリル・クリッシュ(12歳/アメリカ)、ペイリー・ムーン(14歳/アメリカ)、中ノ日知幸(14歳/日本)、寺田智羽(12歳/日本)、リャオ・シャン(14歳/中国)

●プリ・コンペティティブ部門

【ホープ賞】バウリーナ・グライエブ・アベラ(10歳/メキシコ)

第1位 ルアナ・コレア(11歳/ブラジル)

キャザリン・ハーリン(10歳/アメリカ)

第2位 ニコラス・ゲイフリン(11歳/アメリカ)

第3位 マリア・ベック(11歳/アメリカ)

トップ12 マリア・ベック(11歳/アメリカ)、ルアナ・コレア(11歳/ブラジル)、藤島光太(11歳/ブラジル)、ニコラス・ゲイフリン(11歳/アメリカ)、バウリーナ・グライエブ・アベラ(10歳/メキシコ)、キャザリン・ハーリン(10歳/アメリカ)、カン・スギョン(11歳/韓国)、ティアナ・ロヴェット(10歳/アメリカ)、奥藤将文(10歳/日本)、乙戸沙織(11歳/日本)、ジョーダン・サミュエルズ(11歳/アメリカ)、サム・サルティバル(11歳/アメリカ)

●アンサンブル部門

【アンサンブル】

第1位 フォルメント・アルティスコ・コルドベス(メキシコ)

第2位 Dance World made in Takane(日本)

セントロ・デ・アルテス(ブラジル)

第3位 シェイラズ・バレエ(ブラジル)

【パ・ド・ドゥ】

第1位 ティモシー・M・ドレイパー・センター・フォー・ダンス・エデュケーション(アメリカ)

第2位 エリソン・バレエ・プロフェッショナル・トレーニング・プログラム(アメリカ)

第3位 バレエ・アマリロ(アメリカ)

●特別賞

【グリシコ・モデル賞】ローマ・グラヴィ(13歳/アメリカ)

【メアリー・デイ賞】カーステン・ウィックランド(16歳/カナダ)

チェ・ヨンギョ(16歳/スイス)

【サラ・チェーピン・ランガム賞】

サラ・ミシェル・ムラウスキー(15歳/アメリカ)

ライアン・スティール(16歳/アメリカ)

【最優秀ソロ・ダンス賞】

テルモ・ヒギノ・ゴメス・モレイラ(15歳/ポルトガル)

【優秀指導者賞】ジェミー・レヴェット

【優秀審判賞】ロサリオ・ムリージョ

【優秀スクール賞】

ロック・スクール・フォー・ダンス・エデュケーション

【コンテンポラリー賞】

カミール・ブレイチャー(15歳/南アフリカ)

シャルル・ルイ・アンドレ・吉山(17歳/日本)

スカラシップ受賞者(6月5日現在)

【エイリー・スクール】

キラ・キング(18歳/アメリカ)

ジェラルド・ワトソン(17歳/アメリカ)

ジェイムズ・アップルホワイット・フランソワ(17歳/アメリカ)

【ABTサマー・インテンシブ】

リット・ホグクニアン(14歳/アメリカ)

コートニー・メッサー(11歳/アメリカ)

スカイラー・ルービン(15歳/アメリカ)

キリル・クリッシュ(12歳/アメリカ)

ロレンス・ラインズ(16歳/アメリカ)

【オーストラリア・バレエ・スクール】

片山実優(14歳/日本)

シャオ・クン(17歳/中国)

奥藤将文(10歳/日本)

ハンナ・オニール(14歳/ニュージーランド)

堀内恵(14歳/日本)

舞原モカ(13歳/日本)

ウイニング星来(12歳/日本)

【ボストン・バレエ・スクール】

ブライス・サダース(16歳/アメリカ)

【ブリアンスキー・サルトガ・バレエ サマー・プログラム】

上村栞花(11歳/日本) 乙戸沙織(11歳/日本)

【カナダ・ナショナル・バレエ・スクール】

ペイリー・ムーン(14歳/アメリカ)

【ハリッド・コンサヴァトリー】

アネット・フェインバード(15歳/アメリカ)

サム・ジョーンズ(16歳/アメリカ)

結城亜美(13歳/日本)

片山実優(14歳/日本)

ジュリアナ・ギリエルミ・レオネル(15歳/ブラジル)

ブルーナ・パンティニ(14歳/ブラジル)

【ABTジャクソン・ケネディ・オナシス・スクール】

エリス・ミラー(14歳/アメリカ)

エイプリル・ジャングラーソ(16歳/アメリカ)

コルビー・パーソンズ(17歳/アメリカ)

クレーベル・レベコ・ネット(16歳/ブラジル)

【ジョン・クランコ・スクール】

ジョージア・レースロップ(17歳/アメリカ)

マイルズ・E・パートル(16歳/アメリカ)

キャロライン・ダイアン・ウィルソン(15歳/アメリカ)

クレア・テイヴィス(13歳/アメリカ)

ダニエル・オジェダ(17歳/ベネズエラ)

【ミラノ・スカラ座バレエ・スクール】

フランセスカ・ドゥガルテ・ロメロ(17歳/ベネズエラ)

【ニュージールランド・スクール・オブ・ダンス】

アンドレ・オリベイラ・サントス(15歳/ブラジル)

【プリンセス・グレース・クラシック・ダンス・アカデミー】

リット・ホグクニアン(14歳/アメリカ) オ・ヌリ(15歳/韓国)

【ロック・スクール・フォー・ダンス・エデュケーション】

エイシャ・ブイ(12歳/アメリカ)

コンスタンティン・ニコラス・アレン(13歳/アメリカ)

【ロイヤル・バレエ・スクール】

ケイリー・ショック(17歳/アメリカ)

クローイ・マッケナ(16歳/アメリカ)

【ロイヤル・ウィンベグ・バレエ・スクール】

堀内恵(14歳/日本) 高田樹(15歳/日本)

【サンフランシスコ・バレエ・スクール】

カイル・テイヴィス(16歳/アメリカ)

フィリップ・ボロエフ(18歳/アメリカ)

カミール・ブレイチャー(15歳/南アフリカ)

【ステップス・オン・ブロードウェイ】

ライアン・スティール(17歳/アメリカ)

ブライス・サダース(16歳/アメリカ)

【ワシントン・スクール・オブ・バレエ】

ヤナ・フェルドマン(17歳/アメリカ)

カーステン・ウィックランド(16歳/カナダ)

オーロラ・ディッキ(18歳/ブラジル)

カロリーナ・ネヴェス・リペイロ(15歳/ブラジル)

ナヨン・レンヘル・ロビナ(16歳/ブラジル)

ノルトン・ラモス・ファンティネル(19歳/ブラジル)

ジョブ・オファー(6月5日現在)

【ウィーン国立歌劇場バレエ】

浅田良和(18歳/日本)

【ABTスタジオ・カンパニー】(2008年より)

メリッサ・ハミルトン(18歳/ギリシャ)

マイルズ・E・パートル(16歳/アメリカ)

【ヒューストン・バレエ】

ジム・ノワコウスキー(17歳/アメリカ)

【ヒューストン・バレエII】

チェホン・ヴェスピ・チョップ(18歳/イギリス)

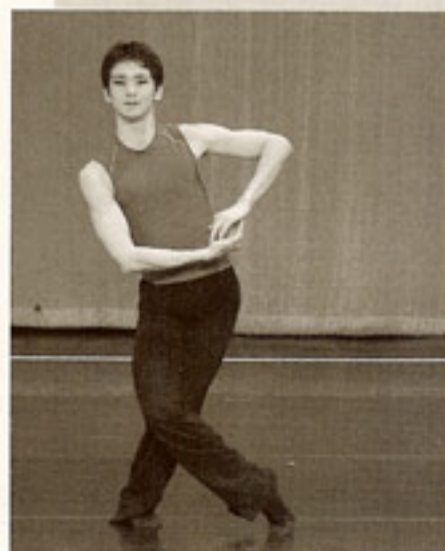
シャルル・ルイ・アンドレ・吉山(17歳/日本)

【ワシントン・バレエ・スタジオ・カンパニー】

マコ・ナガサキ(18歳/モンゴル)



寺田智羽(ジュニア部門男性1位) Tomoha Terada ©Igor Mikhaliev



シャルル・ルイ・アンドレ・吉山(コンテンポラリー賞) Charles-Louis Andre Yoshiyama ©Igor Mikhaliev



カミール・ブレイチャー(コンテンポラリー賞) Camille Bracher ©Igor Mikhaliev

ヴァリエーション。細かい脚さばきの美しさ、跳躍の柔らかさに客席がどよめいた。長身でノーブルな雰囲気を持つ浅田は、ウィーン国立歌劇場バレエへの入団が決まった。第三位は田辺淳とチェ・ヨンギョの二人。ピルエットにもさまざまな細かいテクニックを盛り込んだ田辺の演技には観客の拍手が鳴り止まなかった。

また「コンテンポラリー賞」を受賞したシャルル・ルイ・アンドレ・吉山は、ヒューストン・バレエIIとワシントン・バレエの二つから入団の誘いを受けた。コンテンポラリーでのクールで乾いた肌触りの演技が高く評価されたのだ。



【海賊】マリアネラ・ヌエス、ティアゴ・ソアレス Mariana Nunez and Thiago Soares in *Le Corsaire* ©Nan Melville



【ルビー】(パランシン振付)パロマ・ヘレーラ、ニコライ・ヒュッペ Paloma Herrera and Nikolai Hübbe in *Rubies* ©Nan Melville



【椿姫】(ノイマイヤー振付)オーレリ・デュボン、マニュエル・ルグリ Aurélie Dupont and Manuel Legris in *La Dame aux Camélias* ©Igor Mikheev



【モノ・リタ】(ガリリ振付)アリシア・アマトリアイン、ジェイン・レイリー Alicia Amatriain and Jason Reilly in *Mono Lisa* ©Nan Melville



【春の水】シオマク・レイエス、ゲンナジ・サヴェリエフ
Xiomara Reyes and Gennadi Savaliev in *Spring Waters* ©Igor Mikheev



【クワイエット・ミュージック】(スルビエ振付)イザベラ・ボイルストン、デヴィッド・ホルバーク
Isabella Boylston and David Hallberg in *Quiet Music* ©Hideaki Taniguchi



何より音楽性が重要です
エリザベット・プリテール Elizabeth Pineda
パリ・オペラ座バレエ学校校長

—— プラテルさんは今回初めてYAGPの審査に参加されました。どんな印象を持たれましたか。

プラテル 何と言っても男性ダンサーが素晴らしいですね。とくにシニアが印象的でした。自分を押し出して競い合うと同時に、舞台をとっても楽しんでる様子が伝わってきて、見ていても気持ちよかったです。とはいえ女性にがっかりしたわけではありません。

—— しつかりした技術を持ったダンサーが多かった。ただ、抜きん出た個性の持ち主が見られなかった。私から見ると、彼女たちは美しいポワント・ワークや音楽性にあまり注意を払わず、ただビルエクトをたくさん回ることに力を注いでいるような気がしました。

私が見たいのは、スタイルとテクニクが見事に結びついたダンサー。とりわけ音楽性、ポール・ド・ブラ、エポールマンが重要だと思います。

—— 世界各国から参加している子どもたちに何か違いを感じますか。

プラテル 結局のところ、大きな違いはないと思います。面白いのは、たとえば日本とアメリカの男の子が並んでクラスを受けているとします。初日は違う国から来たと一目でわかりますが、それが翌日になるとまったく同じよう

に踊っているんです。バレエの魔法ですね。(笑) もちろんポール・ド・ブラにしてもさまざまなやり方があります。でも、それは流派の違いにすぎない。審査のうえでは忘れるべきです。

—— 日本人ダンサーにはどんな印象を持たれましたか。

プラテル この数年の間に大きく進歩していますね。身体的にも変化して身長も伸びた。女性はポワント・ワークがよくできています。男性は跳躍が高く、とてもいいと思います。

—— 審査を担当しないプリ・コンペティティブ部門(九〜十二歳)の演技も、客席でご覧になっていましたね。

プラテル 正直なところ少し疑問を感じました。その年齢に合った子ども向けのヴァリエーションをやるのならいいんです。ところが十二歳の子が「エスメラルダ」のヴァリエーションや「黒鳥のパ・ド・ドゥ」を踊るのは理解できません。そういう踊りはせめて十五歳

になってから、あるいはバレエ団に入る年齢になってから踊ればいい。子どもの成長を考えた場合、問題があると思います。女の子も男の子も十四歳くらいで身体が変化します。そうしたら、もう一度そのテクニクを練習し直さなくてはいけなくなります。

—— 今回はオペラ座バレエ学校からスカラシップが出ないそうですが。

プラテル 学校の規則で、校長と教師二人が立ち会う試験を経たうえでなければ、誰の入学も許可できないのです。私がここで誰かに試験を受けにいらつしやいと声をかけることはできません。でも、勝手にスカラシップを出すことはできないんです。

—— プラテルさんが探しているのはどんな生徒ですか。

プラテル 私のチョイスはつねにパリ・オペラ座バレエのためのものです。オペラ座で踊るにふさわしい身体であり、テクニクであり、スタイルです。

—— では、オペラ座スタイルとは？

プラテル 腕の動きにしても、私たちのやり方があります。ポワント・ワークにしても、ロシアともイギリスとも違う。プティ・パットゥワリーのテクニクも大きな要素ですね。音楽性もロシアとは違います。私たちのエレガンスもまた、この音楽性から来ているのだと思います。

—— ご自身が校長に就任して最初から指導した生徒たちをプラテルさんは「スカラムーシユ世代」と呼んでいますね。その第二世代はいま何歳ですか。

プラテル 十四歳、十五歳です。一年マルティネスが「スカラムーシユ」をバレエ学校公演で振付けてくれたとき、彼らが最年少だったんですよ。「スカラムーシユ」世代は私の子どもたち。今度は彼らに「スカラムーシユ」の主演を踊らせたいんです。そのためにはあと二年待たなくては。その日がいまから楽しみです。



クオリティに目を向けて
ラリッサ・サヴェリエフ Larissa Savellier
ユースアメリカ・グランプリ創立者、芸術監督

—— 今年のYAGPを振り返って、どんな感想をお持ちですか。

サヴェリエフ 男性ダンサーのレベルの高さに、とても満足しています。強いきらめきを持った子どもたちが大勢いました。さらにエキサイティングだったのは、今回バレエ団への入団がたくさん決まったことです。シニア男性二位のジム・ノワコウスキーやコンテンポラリー賞のシャール・ルイ・アンドレ・吉山など、何人もが就職を決めることができました。それから、この七月にイタリアのスポレート・フェスティバル

に子どもたちを参加させることができ、そののも本場にうれしい。子どもたちが出演するのは、フェスティバルの歴史

上初めてのことで、若い才能を祝福し

援する意味で、私たちを招いてくれることになりました。

—— 大きな舞台に立つという経験は、子どもたちをさらに成長させてくれるでしょうね。

サヴェリエフ その通りです。私たちはYAGPをたんなるコンクールだとは考えていません。私たちは子どもが自分たちのキャリアを築くために、彼らにもっと幅広い経験をプレゼン

したい。バレエ学校、バレエ団、あるいは舞台……私たちはさまざまなチャンスをつなぐダンス界のインターネットでありたいと思っています。

—— ABBTの芸術監督ケヴィン・マツケンジー、バーミンガム・ロイヤル・バレエの芸術監督デヴィッド・ピントリーをはじめ、バレエ団関係者も数多くやってきました。

サヴェリエフ ええ。今後はもっとたくさん

の芸術監督をコンクールに招きたいと考えています。ピントリーはYAGPを見たいと自分から電話してきてくれたんです。世界中から集まったダンサーを



フォルメント・アルティスコ・コルドベス (Muy Dentro De La Tierra) (アンサンブル部門112) ©Gene Schivone



© Gregor Hatala

自分を披露するチャンス

グレゴール・ハタラ Gregor Hatala

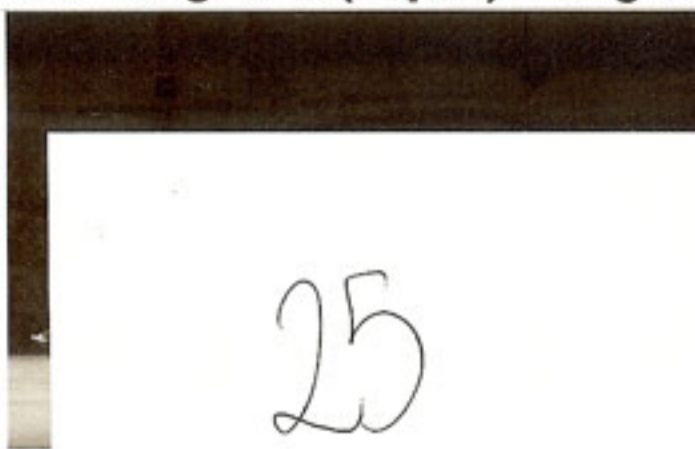
ウィーン国立歌劇場バレエプリンス

NYファイナルの審査は今回が初めてですね。

ハタラ とてもレベルが高いですね。素晴らしいダンサーが大勢いたから、順位を付けるのがたいへんだった。ぼくはウィーン国立歌劇場バレエ芸術監督



25



監督ジュラ・ハラソゾーの代理としてここにきています。彼とは昔からの友人。採用するダンサーの選定、スカラシップの選考に関して、ぼくを信頼してすべてまかせておいてくれます。

今回、シニア男性、一位の浅田良和がウィーン国立歌劇場バレエへの入団を決めました。彼を選んだら大きな理由は何か。

ハタラ バレエ団にとっても重要だったのは、彼の背が高いということでした。ぼくたちのところには背の高い女性ダンサーが大勢いますから。もちろん、彼は身体的な条件もいい。と

ますし、いる。そこあって、

参考になった。

ステイバ
ディネー
ルに開
す。フェ
ハ・ガラ
いるんで
双の音楽
コンサー

ト、オペラ、ダンス公演が行われます。フェスティバルが創設されてから今年で五十年。創設者の作曲家メノッティが二月に亡くなったのは残念ですが、フェスティバル五十年を記念して今年には特別なガラ公演を用意したいと考えてきました。そこで、YAGPから選抜した子どもたち——つまり未来のスターたち——と、今日の世界的なスター・ダンサーが一同に会する企画を思いついたんです。子どもたちが自分の能力を披露できるチャンスを作ってあげたい。大きなフェスティバルですから、バレエ団の芸術監督やエージェンツが大勢やって来るんですよ。

ハタラ ウィーンのご出身ですね。

ハタラ ええ、両親がともにダンサーで、父はウィーン国立歌劇場バレエのバレエ・マスターでした。ぼくは十六歳でウィーン国立歌劇場に入団しました。プリンスバルに昇格したのは二〇〇〇年。最近ではハンガリー国立バレエでもゲスト・プリンスバルとして踊っています。中村祥子がウィーンにいたときはよく一緒に踊っていたんですよ。

二年前にバレエ団の芸術監督がレナート・ツァネラからハラソゾーに変わりました。

ハタラ バレエ団は大きく変わりました。というのも、それまでウィーンにはバレエ団が二つあったんです。ウィーン国立歌劇場バレエとフォルクスオーパー・バレエ。その二つがひとつに統合されたんです。いま公演回数は歌劇場で年間五十公演、フォルクスオーパーで三十公演あります。ダンサーの数も百人強。大カンパニーです。

一度に見られる場所はほとんどありません。ピントリーは何人かの子どもたちにバレエ学校を卒業する年齢になったらもう一度会いたいと声をかけていました。審査員も、ディレクターも、YAGPの期間中、クラスや審査会場で子どもたちのことを注視しています。こうして関係者の目に留まる場所に出て行くことが、何よりも重要なことなのだと思えます。それがまた子どもたちにとって次のチャンスにつながるべく、そこそが賞よりも重要な、YAGPに参加する真の価値なのだと思います。

今年からYAGPとローザンヌ国際バレエコンクールとの提携が始まったそうですね。

サヴェリエフ ええ、お互いに参加者の交換を始めようということになりました。つまり今回のYAGPで賞が取れなかったダンサーのなかから、男女二名にローザンヌに参加する権利が与えられます。予備選考を受けることなしに、直接来年一月のローザンヌ本選に出場することができるんです。また、そのほかの主要コンクールとの提携も考えています。

日本人の子どもたちに何かアドバイスはありますか。
サヴェリエフ 私が感じるのは、テクニックを学習するスピードをもう少しゆっくりにしたほうがいいということです。八、九歳という年齢で負担の大きいヴァリエーションを踊る必要はありません。何回ピルエットを回れるかを気にするよりも、むしろ自分のピルエットのクオリティそのものに意識を

向けるべきだと思う。重要なのは量よりも質です。何でも早く学びすぎるのは、拙速で家を建てることに似ています。基礎工事がそが大事なのに、それが正しく行われていなかったら、やがて家そのものが崩れてしまいます。テクニックは順を追ってゆっくり学んでいくべきものです。

十一月に行われる日本予選は、東京ではなく大阪で行われるんですね。サヴェリエフ ずっと東京で予選大会を開催してきた、東京周辺の優秀な子どもたちはもうみんな世界へ送り出してしまったような気がします。だから、次の世代が成長してくるまでしばらく待たなくてはいいかもしれません。その間は東京とは別の場所で優秀な才能を探そうと思ったのです。大阪での開催は四年ぶり。今後二年間は大阪で予選を開催するつもりです。





©Suzanne Dance Magazine

バレエ団と学校を作ります！ アンヘル・コレラ Angel Corella

ABTの人気スター、アンヘル・コレラが来年、マドリッドにバレエ団とバレエ学校をオープンさせる。(スペイン・バレエの誕生だ。審査会場に姿を見せた彼に、芸術監督としてのヴィジョン、七月の来日公演などについて話を聞いた。

—— YAGPの最終ラウンドを見るのは今回が初めてですね。

コレラ そうです。毎年ガラ公演は見に来ていたんだけどね。ぼくはまだYAGPが始まったばかりのころガラ公演で踊ったことがあるんだ。そういう縁もあって、このコンクールにすごく親しみを感じています。今回、実際の審査を見て、出場者のレベルがとても高いと改めて感じました。こうして衣裳をつけて舞台上立つのは、子どもたちに大きな緊張を強いることだと思う。でも、みんなプロフェッショナルに見事にこなしているのがうれしかった。それに、世界中から集まったさまざまな流派のダンサーが見られるのも素晴らしいね。

—— アメリカ、日本、ブラジル……世界中から集まっていますね。
コレラ スペインからの子が誰もいなかったな。(笑)でも、スペインにもいいダンサーは大勢いるんだよ。日本のダンサーもとてもレベルが高いね。

ぼくがスペインに新しく作ったバレエ団のオーディションにも、日本人が大勢受けに来たんだ。最終的には六人か七人の日本人に入団してもらうことにしました。本当はもっと大勢採りたかったけど、そうしたらスペインではなく日本人のカンパニーになってしまいうからしうがなかった。YAGPはニューヨークのコンクールだから、アメリカの子どもたちも大勢参加しているけど、ぼくは日本やブラジルのダンサーのほうが力強い踊りを見せてくれたいたと思います。

—— そのコレラさんの新しいカンパニーですが、名前は決まりましたか。
コレラ ええ。スペイン語で言うところの「バレエ・デ・エスパーニャ、つまり「スペイン・バレエ」。スペイン王室の支援を受けているので、ゆくゆくはスペイン王立バレエとなる予定です。これは行政的な理由で、五年間の活動を経たうえでないと、「王立」の称号はもらえないんです。

—— 先ほどのオーディションの話をもう少し詳しく教えてください。

コレラ オーディションは今年の二月に行いました。九百人も集まったんです。まず書類選考で百三十人まで絞り込んで、最終的には八十名を選んだ。審査員は芸術監督のぼくとシンシア・ハーヴェイ、そしてウラジミール・ワシリエフ。ハーヴェイは副芸術監督としてぼくをサポートしてくれることになっていました。ワシリエフもバレエ団のコーチをやってくれます。とても大きなカンパニーになります。ぼくがまだ若くてアクティブだということとが、とても有利に働いているんだと思う。大勢の才能ある若者がぼくにいてきてくれます。ぼくは若いダンサーたちに自分のエネルギーを注ぎ込みたい。これからの楽しみですね。

—— ダンサーを選ぶときはどんな点を重視しましたか。
コレラ もちろんテクニックの部分はとても重要です。実際、ダンサー自

身も観客も、すごい数の回転や美しい跳躍にやっばり反応するよね。でも、芸術監督として、ぼくはハーモニーを大切にしたい。充実したテクニックと芸術性とのハーモニー。もともと重要なのは観客とのコミュニケーションなんだよ。何回ピルエットを見せられるかばかり気にしていたら、それこそオリンピックになってしまう。ぼくは、そのピルエットを通して、踊ることを通じてコミュニケーションできる人をも探しています。

—— 旗揚げ公演の予定は？

コレラ 二〇〇八年の九月を予定しています。最初の演目は「ラ・パヤデル」全幕です。場所はマドリッドの王立劇場。その後には二つのトリプル・ビルを考えています。ひとつはクリストファー・ウィールドンの作品とバ





メリッサ・ハミルトン(シニア部門グランプリ) Melissa Hamilton ©Igor Mkhalev

ランシンの「シンフォニー・イン・C」、それからまだ交渉中なんだけどサープの「イン・ジ・アップパー・ルーム」。もうひとつはスタントン・ウエルチの「クリア」、ロビンスの「ファンシー・フリー」、アルヴィン・エイリーの「リヴァー」。これまでスペインにはクラシック・バレエの大カンパニーがずっとなかったんだけど、それがやっと実現するんです。カンパニーの本拠地はマドリッドにある王宮のひとつ。スペイン王室がぼくたちに提供してくれました。この宮殿は湖に面していて、背後には山がそびえている。まるで「白鳥の湖」の舞台装置みたいなんだよ。(笑) とても美しいロケーションです。ここにカンパニーと学校ができるわけです。

—— 学校も併設されるんですね。
コレーラ 学校も〇八/〇九年シーズンにオープンします。いま王宮を改修中なんですけど、まもなく完成するはず。そうしたら、十一歳から十八歳までの子どもたちがそこで暮らせるようになります。スカラシップも用意するし、世界中から子どもたちが集まるインターナショナルな学校になると思う。もちろん日本からも大歓迎だよ。

—— コレーラさんはこれからスペインでの活動が増えることになりそうですね。
コレーラ そうなると思う。でも、ABTでもゲスト・アーティストとして踊ります。METシーズンにはもちろん出演するし、そのほかの舞台にも立ちます。ぼくがABTを去るんじゃない

いかって心配している人もいるかもしれないけど、それは大丈夫だから安心して。(笑) ただ、それ以外の時間はほとんど、ぼくのカンパニーと一緒に過ごすことになるでしょう。

—— ABTでは最近ディアナ・ヴィシニョワと踊ることが多いですね。
コレーラ 観客はぼくたちの組み合わせをとっても気に入っています。去年は「ジゼル」を一緒に踊ったんだけど、その批評はぼくがこれまで受けたなかでも最高のもののひとつだった。「ニューヨーク・タイムズ」に「ディアナ・ヴィシニョワとアンヘル・コレーラはメトロポリタン・オペラ・ハウスに新しい歴史を作った」と書かれたんだよ。今年も、「ロミオとジュリエット」や「夏の夜の夢」を踊ります。

—— そのMETシーズンの後、七月には日本で「ドン・キホーテ」を踊りますね。

コレーラ ニーナ(アナニアシヴィリ)のカンパニー、グルジア国立バレエの公演に参加します。相手役のレティツィア・ジュリアーニは美しさと強さの両方を兼ね備えたイタリア人ダンサー。彼女は来年からぼくのカンパニーでプリンシパルを務めてくれることになっています。ぼくの新しいダンス・パートナーを日本に紹介できるのをうれしく思います。ぼくはいま舞台の上でのごく自由を感じている。観客とのコミュニケーションを心から楽しんでいきます。テクニクの前でも、表現の前でも、これまで以上に強靭になっていくと思う。それを日本のみなさんに見ていただくのがとても楽しみです。

